

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-009654

(43)Date of publication of application : 19.01.1999

(51)Int. Cl.

A61H 39/08

(21)Application number : 09-163932 (71)Applicant : DAIHOU IKA KOGYO KK

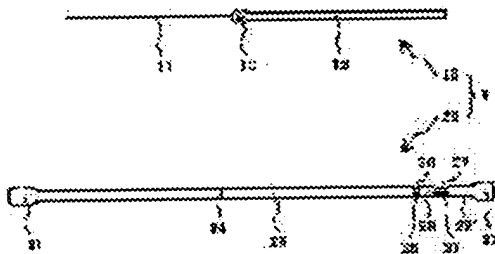
(22)Date of filing : 20.06.1997 (72)Inventor : SUYAMA KENJI

## (54) TREATMENT TOOL

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a treatment tool for acupuncture keeping acupuncturist's fingers from a needle even at the time of treatment by holding an adhesively sealed state to a treating time.

SOLUTION: The treating tool 1 consists of a treating needle 10 obtained by combining a needle part 11 and a handle part 12 and a cylinder 20 capable of housing the needle in the state of being freely movable. Then a first deformed part 13 is provided near a connecting part with a needle part at the handle part of a treating needle. In addition, both tips of the cylinder are adhesively closed in the state of housing the treating needle and the cylinder is provided with a first fold-separable part 23 near an adhesively closed tip on the handle part side of the treating needle, is provided with a second fold-separable part 24 at a position near the connecting part of



the handle and needle parts of the housed treating needle, constitutes a needle tube part 25 between the first and second fold-separable parts and provided with a second deformed part 26 at a part of an inner peripheral surface near the first fold-separable parts of the needle tube part. Then, though the needle pipe part is movable to the tip of the needle part of the treating needle at the time of sold- separating the first and second fold-separable parts, the second deformed part of the needle tube part is restrained by the first deformed part of the handle part to avoid pulling out from the treating needle.

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-9654

(43)公開日 平成11年(1999) 1月19日

(51)Int.Cl.<sup>9</sup>

A 6 1 H 39/08

識別記号

F I

A 6 1 H 39/08

B

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平9-163932

(22)出願日 平成9年(1997) 6月20日

(71)出願人 593128851

大宝医科工業株式会社

広島県広島市安佐北区三入一丁目25番9号

(72)発明者 須山 健司

広島県広島市西区己斐東2丁目30-14

(74)代理人 弁理士 堀 和子 (外1名)

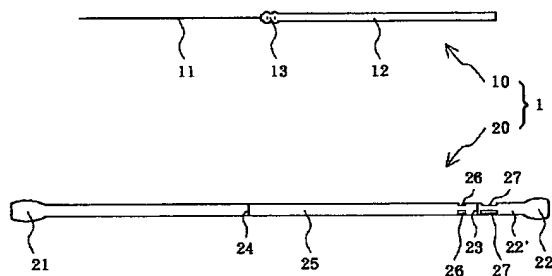
(54)【発明の名称】 治療具

(57)【要約】 (修正有)

【課題】 治療時まで密閉状態を保持でき、治療に際しても治療者の指が鍼に触れることのない鍼治療用の治療具の提供。

【解決手段】 治療具1は、針部11と柄部12とを結合した治療鍼10と、治療鍼を移動自在に収納可能な筒状体20とからなり、治療鍼の柄部には針部との結合部付近に第1の異型部13が設けられ、筒状体の両端は治療鍼を収納した状態で密閉され、筒状体は、治療鍼の柄部側の密閉端付近に第1の折り離し可能部23を有し、収納した治療鍼の柄部と針部の結合部付近の位置に第2の折り離し可能部24を有し、第1及び第2の折り離し可能部の間に針管部25を構成し、針管部の第1の折り離し可能部の付近の内周面の一部に第2異型部26が設けられ、第1及び第2折り離し可能部を折り離したとき、針管部は治療鍼の針部の先端まで移動可能であるが、柄部の第1の異型部に針管部の第2異型部が係止され治療鍼から抜け落ちないようにした。

FIG. 1



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】針部と柄部とを結合してなる治療鍼と、該治療鍼を移動自在に収納可能な筒状体とからなり、前記治療鍼の柄部には前記針部との結合部付近に第1の異型部が設けられ、前記筒状体の両端は前記治療鍼を収納した状態で密閉され、前記筒状体は、前記治療鍼の柄部側の密閉端付近に第1の折り離し可能部を有すると共に、収納した治療鍼の柄部と針部の結合部付近の位置に第2の折り離し可能部を有して、前記第1及び第2の折り離し可能部の間に針管部を構成し、該針管部の前記第1の折り離し可能部の付近の内周面の小なくとも一部に第2異型部が設けられ、前記第1及び第2折り離し可能部を夫々折り離したとき、前記針管部は前記治療鍼の針部の先端まで移動可能であるが、前記柄部の第1の異型部に前記針管部の第2異型部が係止されることにより前記治療鍼から抜け落ちないように構成されたことを特徴とする治療具。

【請求項2】前記筒状体は前記第1の折り離し可能部の密閉端側の内周面の小なくとも一部に第3の異型部を有し、前記第1の折り離し可能部を折り離すことにより折り離された端部を、前記治療鍼の柄部に嵌め込むと、前記第3の異型部は前記柄部への固着部として機能することを特徴とする請求項1記載の治療具。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は鍼治療に用いられる治療具に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来、鍼治療は、鍼の先端がツボを刺激して身体のバランスを整える治療法であるが、細い鍼の先端を指で支えて皮膚にあてがい刺し込むか、針管と呼ばれる細管を皮膚にあてがい、針管の中に針を挿入し、そのまま皮膚に刺し込む方法が行われている。

【0003】鍼は身体に刺し込まれて用いられるものであるから、治療者の手に先端部が触れたり、露出状態になることは好ましくなく、通常密閉された状態で取り引きされている。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、密閉された状態で購入しても、治療の際には、密閉容器から取り出し、前述のように、治療者が鍼の先端部を指で支えて皮膚に刺し込んだり、露出した鍼の先端を指で支えて針管に挿入していた。

【0005】本発明は、治療時まで密閉状態を保持でき、治療の際にも治療者の指が鍼に触れることのない鍼治療用の治療具を提供することを目的としている。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】本発明の第1態様の治療具は、針部と柄部とを結合してなる治療鍼と、該治療鍼を移動自在に収納可能な筒状体とからなり、前記治療鍼

の柄部には前記針部との結合部付近に第1の異型部が設けられ、前記筒状体の両端は前記治療鍼を収納した状態で密閉され、前記筒状体は、前記治療鍼の柄部側の密閉端付近に第1の折り離し可能部を有すると共に、収納した治療鍼の柄部と針部の結合部付近の位置に第2の折り離し可能部を有して、前記第1及び第2の折り離し可能部の間に針管部を構成し、該針管部の前記第1の折り離し可能部の付近の内周面の小なくとも一部に第2異型部が設けられ、前記第1及び第2折り離し可能部を夫々折り離したとき、前記針管部は前記治療鍼の針部の先端まで移動可能であるが、前記柄部の第1の異型部に前記針管部の第2異型部が係止されることにより前記治療鍼から抜け落ちないように構成されたことを特徴とする。

【0007】本発明の第2の態様の治療具は、前記筒状体は前記第1の折り離し可能部の密閉端側の内周面の小なくとも一部に第3の異型部を有し、前記第1の折り離し可能部を折り離すことにより折り離された端部を、前記治療鍼の柄部に嵌め込むと、前記第3の異型部は前記柄部への固着部として機能することを特徴とする。

## 【0008】

【作用及び効果】治療鍼は筒状体に収納され、筒状体の両端は密閉されているから、治療鍼は露出してない。密閉された筒状体には2か所に第1及び第2折り離し可能部が設けられ、その間の筒状体は針管部として構成されている。従って、折り離し可能部を折り離すことにより、針管が形成されるので、治療の際に別の針管を用意する必要はない。針管は治療鍼に沿って移動自在である。第1の折り離し可能部は、筒状体の柄部方向端部寄りに設けられているが、針管の第1の折り離し可能部の付近の内周面の小なくとも一部に第2異型部が設けられ、この異型部が前記治療鍼の柄部の異型部に係止されるので、針管は、治療鍼の針部先端方向へ抜け落ちることがない。従って、治療に際し、針管を手で支えて皮膚にあてがい、針管に覆われている針部先端を皮膚に刺し込むことができる。このように、針部の先端を全く外部に露出することなく、鍼治療を行うことができる。また、第1の折り離し可能部を折り離した後、前記第2の折り離し可能部を折り離す際、筒状体に収納されている治療鍼を前記折り離した方向へ突出移動させる必要があるが、その際、筒状体から治療鍼が抜け落ちてしまわないための係止部としても作用する。

【0009】また、前記第1の折り離し可能部の密閉端側の内周面の小なくとも一部に第3異型部を設け、折り離した密閉端を治療鍼の柄部に嵌め込み固着できるようにすれば、使用時に、治療鍼を持たずに、針管を持つことがあっても治療鍼が針管から抜け落ちないようにすることができる。

## 【0010】

【発明の実施の形態】図1は本発明の治療具を構成する治療鍼及び筒状体の平面図であり、図2は筒状体の正面

図、図3は筒状体の一部の拡大断面図であり、図4は図3のIV-IV線端面図、図5及び図6は前記図で示した治療具の使用状態の斜視図である。

【0011】図1で示すように治療具1は治療鍼10と合成樹脂製の筒状体20とからなる。治療鍼10は筒状体20の内部に収納され、筒状体20の両方の端部21及び22は圧着密閉されている。治療鍼10は針部11と円柱状の柄部12とを結合して構成され、針部11が端部21の方向を向き柄部12が端部22の方向を向いて筒状体20に収納される。筒状体20の中空部は治療鍼10の全長よりやや長く、治療鍼10を長さ方向へ移動させることが可能である。

【0012】治療鍼10の柄部12には、針部11との結合部付近に第1の異型部13が設けられている。第1の異型部13は円柱状柄部を上下方向及び左右方向から交互に2回ずつ噛み締めて形成され、該当部が夫々左右方向及び上下方向に円柱状柄部の外周より突出している。

【0013】筒状体20は、端部22寄りに外周面方向から内周面方向への切り込みからなる第1の折り離し可能部23が設けられている。同様の第2の折り離し可能部24が、筒状体のほぼ中央にも設けられている。この第2の折り離し可能部24の位置は、中に収納されている治療鍼10の鍼部11と柄部12の結合部付近である。第1の折り離し可能部23と第2の折り離し可能部24との間の部分は、針管部（針管）25を構成している。また、第1の折り離し可能部23から端部22に至る部分22'は、後述するキャップを構成する。

【0014】筒状体20の第1の折り離し可能部23の付近の内周面には、第2の異型部26及び第3の異型部27が設けられている。図3の断面図及び図4の端面図に示すとおり、各異型部26、27は、筒状体20を外側から型押しして壁の一部を内側に突出させて形成され、内周面の同一円周上に各3か所設けられている。針管部25に設けられた第2の異型部26は、前記治療鍼10の柄部12の第1の異型部13の移動を妨げる形状及び大きさである。また、キャップ22'に設けられた第3の異型部27は、キャップ22'を前記治療鍼10の柄部12に被せたとき、キャップ22'を柄部12に固着できる形状及び大きさである。

【0015】このように構成された治療具の使用方法について説明する。

【0016】筒状体20の端部21を下にして、僅かな衝撃を与えると、内部に収納されている治療鍼10は筒

状体20の内部を端部21方向へ移動し、端部22近くの第1の折り離し可能部23の位置は空間となる。第1の折り離し可能部23を折り離して、キャップ部（キャップ）22'を分離し、筒状体20を傾斜させて柄部12の端部を突出させて、キャップ22'を被せる。次に、筒状体20を傾斜させて治療鍼10の柄部12の第1の異型部13が筒状体20の第2の異型部26に係止されるまで充分突出させると、第2の折り離し可能部24の位置まで空間が生ずる。第2の折り離し可能部24を折り離して、針管部25の両端を開放状態にする。

【0017】このようにして治療具1は、治療鍼10に針管25が脱落不能に嵌め込まれた治療可能状態となる。

【0018】図5に示すように、針部11を下に向けると、針管25は自重で下方に移動するが、針管25内部の第2の異型部26が柄部12の第1の異型部13に係止されるので、針管25は治療鍼10から抜け落ちない。また、針部11は、針管25に覆われて、露出することもない。一方、図6に示すように、針部11を上に向けたときには柄部12の端部に被せたキャップ22'が針管25に係止する。

【0019】治療に際し、針管25を指で支えてツボに当て、治療鍼10の針部11の先端を皮膚に刺し込むことができるので、どのように針部11が細くとも針管25に沿って皮膚に刺し込むことができ、治療前及び治療中ばかりでなく、治療後においても針部11を指で触れる必要がなく、患者及び治療者の双方にとって極めて安全である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の治療具の一実施例の構成を示す平面図。

【図2】図1の治療具を構成する筒状体の正面図。

【図3】図1の治療具を構成する筒状体の一部の拡大断面図。

【図4】図3のIV-IV線端面図。

【図5】図1の治療具の使用状態の斜視図。

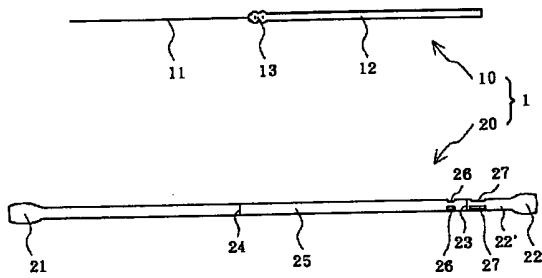
【図6】図1の治療具の使用状態の斜視図。

【符号の説明】

1…治療具、10…治療鍼、11…針部、12…柄部、13…第1の異型部、20…筒状体、21、22…端部、22'…キャップ部、23…第1の折り離し可能部、24…第2の折り離し可能部、25…針管部、26…第2の異型部、27…第3の異型部。

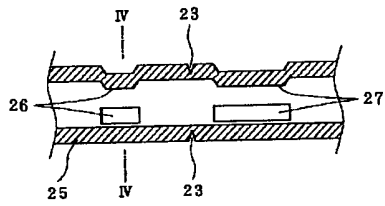
【図1】

FIG. 1



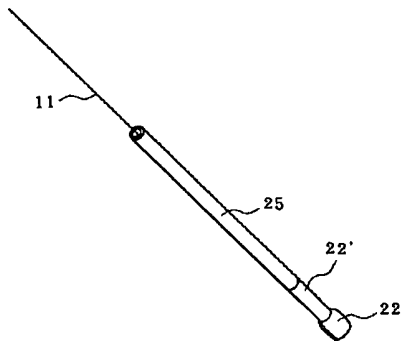
【図3】

FIG. 3



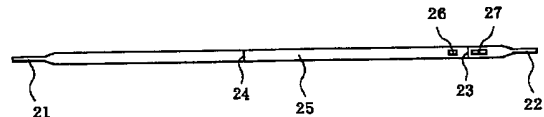
【図6】

FIG. 6



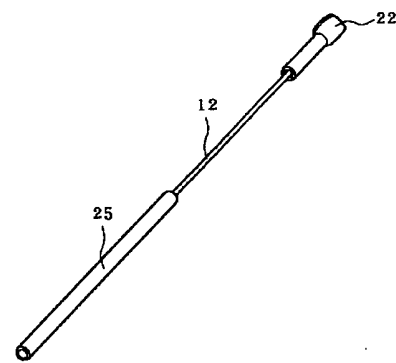
【図2】

FIG. 2



【図5】

FIG. 5



【図4】

FIG. 4

